

資
料

帝国カンマー裁判所法 (一五五五年) (2)

文
字
浩

二
〔承前〕

XXV. 当事者が独自のレートナーを有しうる場合。

さらに、諸侯、聖職者、グラーフ、フライヘル、騎士、あるいは、都市が、その者自身の事件につき、随伴あるいは派遣したアンヴァルトあるいはレートナー、あるいは、他のだが誠実で能力ある者により陳述しようとするとき、その者は、これを行う権能を有するが、一般および特別の不悪意と正当性に関する宣誓をし、各当事者ないしそのアンヴァルトは、相手方あるいは裁判官の申立に基づいて、この宣誓をなす⁽¹⁾べきである。

(1) RKGO 1555, I, LXV.; I, LXXIV.; KGO 1471, §. 7.; RKGO 1495, §. 10.

XXVI. 皇帝のカンマー裁判所の書記局員、および、その採用方法⁽¹⁾。

(1) RKG 1521, XI-XIII, XVI, XVII.

§. 1. カンマー裁判所の書記局の仕事は、人と事件の増加により、以前と比較してかなり増えているので、朕は、〔以下のごとく〕定める。朕の甥、〔帝国〕大書記長たるマインツの大司教により、尊敬すべき、勤勉で、思慮と学識があり、有能で訓練され、人が特別な従順さで畏敬し、すべての行動や態度が書記局の長にふさわしい者一名が書記局長に、同様にして、そのうち、二名はカンマー裁判所のプロトノタル、二名はノタル、そして、二名はレーザーである六名の誠実な者が常に採用されるべきである⁽¹⁾。

(1) RKG 1555, XXVII, §. 6, I, XLIV.; RKG 1496, IV, §. 1.; RKG 1521, XI.; RKG 1523, II, §. 2.; RA 1530, §. 81, 90.; RA 1532, III, §. 7.; VA 1533, §. 12-14.

§. 2. さらに、二名のセクレタリー、二名のイングロシスト、三名のコピスト、一名の書記局下僕が、朕の支援者、マインツの大司教の承認の下に、書記長により、何時にても採用され解雇されるべきである⁽¹⁾。

(1) RKG 1521, XII, §. 1.

§. 3. カンマー裁判所の書記局の上述の者に基⁽¹⁾づき、送達長および出納係が任命されるべきである⁽²⁾。

(1) 出納係 (Einnahmer) は フ ィ ャ ム ニ ャ イ マ ス ター (Fähnigmeister) を意味する。

(2) RKG 1555, I, XXXVI, §. 1.; RKG 1521, XI, XVI.

§. 4. また、書記局に用いられている者が、一層その仕事に精を出し、それに必要な能力を身に付けたいと思うように、朕

は、「以下のごとく」定める。採用された者が死去するか、さもなくば裁判所を辞するとき、能力があり立派に振る舞う次に続く者が、その者に代わって昇進し、そこには別の者が採用されるべきである。⁽¹⁾

(1) RKGO 1521, XI, §. 2.

§. 5. そして、すべての上述およびその他の書記局員は、皇帝陛下、あるいは、汝等の親愛なる皇帝陛下に代わる朕のカンマー裁判所に対して、それらの者の宣誓をし義務を果たすとともに、その他のカンマー裁判所の構成員と同様に裁判所に関与し用いられるべきである。

XXVII. 書記局長の職務と命令について。

§. 1. 書記局長は、すべての書記局の業務を指揮するので、このような書記局の業務の遂行のためによき適切な秩序が保たれ、書記局員がその職務を熱心に果たし、適時に書記局および合議体にあつて、そこにとどまり、その職務上しかるべきこと、さもなくば、書記局長により、不意に生じた原因に基づき、その者に対して行うように命ぜられた書記局業務を迅速にかつ熱心に果たして「書面を」作成するように、すべての事柄につき熱心に監督すべきである。

§. 2. 特に、書記局長は、とりわけ、簡易決定にて採決されるものにつき、各開廷期日の後直ちに訴訟記録や調書が取りまとめられ、これまで行われてきたごとく、これがある開廷期日から次の開廷期日にまで滞らせないように、また、看過や懈怠なく取りまとめられ、できるかぎり熱心になされるように、そして、取りまとめられた記録が、遅滞なく直ちに報告のために手渡されるように注意すべきである。

§.3. 同様に、書記局において、裁判所の書面や判決書等が常にできるかぎり迅速に作成され、それにつき当事者を長く待たすことのないように「注意すべきである」。さらに、また、書記局長は、重大で困難な事件につき、必要なときは何時にても、自ら他の書記局員の業務を助け、皇帝のカンマー裁判所の業務におけるこのような書面等の作成につき、他の者にもまして能力があり役に立つべきである。

§.4. そして、出廷中の書記局長は、カンマー裁判所において皇帝陛下の御名と汝等の親愛なる皇帝陛下の御璽のもとに出すこのようなすべての裁判所の書面、判決書等を自ら校閲し署名する義務を負う。⁽¹⁾

(1) RKGÖ 1555, XII, §. 5, 8.

§.5. また、上述の皇帝陛下の御璽については、書記局長および朕の甥にして帝国大書記長たるマインツの大司教によりこの御璽を委ねられた者は、これを充分なる注意の下に保管すべき義務があり、カンマー裁判所長および陪席判決人により先に法廷あるいは合議体にて裁判された事件の外に、これの用いられることがないように注意すべきである。⁽¹⁾

(1) RKGÖ 1486, XXIV.

§.6. さらに、書記局長は、常に、書記局の欠陥に充分な注意をし、人であれその他のことであれ、何であらうと、書記局の業務を妨げる欠陥を見つけたときは、これを可能な限り改良し除去するか、あるいは、その者がこれをなしえないときは、この欠陥を朕の甥たるマインツの大司教に告知すべきである。この場合、マインツ大司教は、しかるべき調査をし、裁判所の書面であれ、査定その他であれ、この欠陥が書記局の改革を必要とするときは、年毎にカンマー裁判所の査察のために任命される査察委員と協議してこれを改革すべきである。⁽¹⁾

(1) RKGÖ 1555, I, XXVI, §. 1, 2.; RA 1532, III, §. 7.; VA 1533, §. 14, 15.

XXVIII. 合議体、法廷、書記局における二名のプロトノタールについて。

§ 1. プロトノタールは、その職務を自ら遂行し、誠実な勤勉さでこれを司るべきであつて、病気で妨げられるか、あるいは、書記局長の許可の下に、およそ短期間につき、他のしかるべき理由があるものでなければ、その職務を他の者に代行させるべきでない。そして、このことにつき宣誓をするとともに、以下に定められた宣誓が示すごとくに振る舞うべきである。⁽¹⁾

(1) RKGO 1555, I, LIX.; RKGO 1521, XI.

§ 2. すなわち、プロトノタールのうち一名は、常に午前中、合議時に、定刻に合議室にあつて、陪席判決人の評決、および、事件とりわけ終局判決が作成されようとしている事件につき、その都度採決されたことを注意して記録し、陪席判決人が退室する前に、多数説に基づき判決書を起草して陪席判決人に朗読し、これに報告者による署名をなさしめるべきである。そして、その者が在席している必要のない報告やその他の業務が合議室において行われているときは、その者は、事前にカンマー裁判所長の了解を得て、合議室から書記局に赴き、他のプロトノタールとともにここにおいて書記局の業務を行うべきである。⁽¹⁾

(1) RKGO 1555, I, XIII, §. II.; VM 1533, §. 4.

§ 3. さらに、朕は、朕をそのことに促す特別な理由に基づき、「以下のごとく」定める。皇帝のカンマー裁判所のプロトノタールは三冊の調書を作成すべきである。すなわち、まず第一に、合議調書。⁽¹⁾この調書には、以後、皇帝のカンマー裁判所にて出されるすべての判決および決定が、これの作成と採決に与った陪席判決人の名前とともに記載されるべきである。とりわけ、陪席判決人が判決につき意見が一致せずに分かれたときは、多数決で判決を下した陪席判決人の名前とともに判決理由が付記されるべきである。上述のごとく、プロトノタールは、宣誓したごとく、これらすべてを永久に秘密にし、いか

なる者にも開示してはならない。ただし、皇帝陛下あるいは汝等の親愛なる皇帝陛下に代わり、帝国顧問に任命された者が、これを命じ指示したときはこの限りでない。第二に、プロトノタルおよびノタルは、合議調書に基づき、合議体において採決された判決および決定をその都度特別な判決録に記載し、ついで、これに基づき、採決し作成され公判廷にて言い渡されるべき判決を、午後に公判廷の前で陪席判決人全員の出席の下に再度読み上げるべきである。第三に、イングロシストにより、一年を通して法廷にて言い渡された判決はすべて年毎に特別な判決録に記載されるとともに、この判決録は皇帝のカンマー裁判所の書記局に保管されるべきである。⁽²⁾

(1) RKGO 1509, XX.

(2) VA 1531, §. 9.

§. 4. また、陪席判決人に休暇が許されたとき、合議体においてその都度プロトノタルにより、許可の日時、休暇の期間、帰還の日時が記録され、ついで、フェニヒマイスターにその都度告知されるべきである。⁽¹⁾

(1) RKGO 1555, I, VII, §. 1, 2.; VA 1533, §. 3.

§. 5. さらに、朕は、「以下のごとく」定める。プロトノタル、あるいは、そのうちの一名がノタルとともに、法廷で陳述され審理されたことすべてをこの上なく勤勉に記録すべきである。それにより、訴訟記録あるいは裁判上の行為は、その二冊の調書に基づき確実に取りまとめられ、これに基づいて決定が起案されることができる。また、プロトノタルとノタルは、公判廷の終了後直ちに公判調書を比較対照すべきである。⁽¹⁾

(1) VA 1531, §. 40 al. 43.

§. 6. さらに、調書に何か誤りを見つけたプロトノタルは、カンマー裁判所長および陪席判決人に対して、このことを慎

んで指摘するにとどめるべきであって、さらに、合議体にて、判決あるいは決定に対し異議を申し立てるべきでない。⁽¹⁾

(1) VA 1531, §. 41 al. 44.

§. 7. さらに、在廷のプロトノタールあるいはノタールは、訴訟記録の調べが不要な軽微な申立をその都度個別に記録し、ついで、直ちに、調書に基づき、これに対する決定がなされ、次回の公判廷においてこれが言い渡されうるために、次回期日に、決定合議体において、調書に基づきこれを読み上げて告知すべきである。⁽¹⁾

(1) RKGO 1555, I, XIII, §. 18.

§. 8. プロトノタールのうち一名が、欠席さもなければ衰弱等の故障につき、法廷において調書をとることができないとき、ノタールのうちの一名がその者の代わりとして書記局長により任命されるべきである。

§. 9. 書記局におけるプロトノタールの主たる職務は、判決書等の裁判所の書面を作成し、また、その書面が拡大して清書されたときは、これを校閲して署名することであり、プロトノタールは、常にこの職務に誠実に従事すべきである。また、訴訟記録が常に迅速に取りまとめられうるように、その記録簿の保持に努めるとともに、手続の終結された事件をこれに記録し、また、これをレーザーに交付して、書記局においてこれに基づき早急に訴訟記録が取りまとめられるようにすべきである。

§. 10. また、プロトノタール、および、合議体においてそれに代わる者は、求められた裁判所の書面等の拒絶原因となる申立上の瑕疵をプロクラーートルに開示すべきでない。

XXIX. ノタールの職務について。

§. 1. ノタールは、その職務を自ら熱心に司り、しかるべき理由もなく、これを他の者に委ねず、先にプロトノタールにつき定められたごとくに振る舞うべきである。⁽¹⁾

(1) RCGO 1521, XI.

§. 2. また、ノタールは、求められ、あるいは、命じられた合議体においてだけでなく、法廷および書記局においても、常に書記局長の意見と命令に基づき、先にプロトノタールにつき述べられたごとくに自らを用いさせるべきであり、また、そこにおいて、時とともにプロトノタールの職に引き立てて用いられうるごとくに「職務を」果たすべきである。

§. 3. とりわけ、ノタールは、二名のレーザーとともに手続の終結した事件につき訴訟記録を迅速に取りまとめるべきである。さらに、手続の終結した決定、占有侵奪事件、ラント平和侵犯疑惑雪免事件および執行事件が、他の事件に優先して可能な限り迅速に処理され、報告に移されるよう充分に注意すべきである。⁽¹⁾

(1) VM 1533, §. 12.

XXX. 二名のレーザーの職務について。

§. 1. 二名のレーザーは、ノタールを助けて、訴訟記録を取りまとめさせるべきである。そして、時として、事件が多くの争点に分かれ、次々に様々な申立がなされるので、レーザーは、各事件がいかなる争点につき手続を終結されたのかによく注意し、報告者がそれに従いうるように、このことを訴訟記録に簡潔に記載すべきである。さらに、同様に、各争点ごと

に、それに関する書面を整理して保管すべきである。そして、ある一つの事件において、手続が先に終結した争点について報告がなされていないときは、その申立につき他の申立とともに一つの裁判がなされるように、それに続く申立もまた当該報告者に割り当てられるべきである。⁽¹⁾

(1) VA 1531, §. 42 al. 45.; VA 1533, §. 13.

§. 2. 折り合えるごとく、レーザーのうち一名が、交替で公判廷に在廷し、提出書面を受け取って、それに記号を付し、それに慣行のごとく記録し、また、すべての事件につき、公判廷においてその都度行われる手続終結宣言に注意し、報告者がそれに従いうるように、事件の手続が終結したことを訴訟記録に記載すべきである。⁽¹⁾

(1) VA 1531, §. 42 al. 45.; VA 1533, §. 13.

§. 3. カンマー裁判所の事件や業務の増加は甚だしく、一つの保管場所が指定されていたので、絶えずこれが蓄ってゆくであらうことは想像に難くないので、朕は、これにつき、挙げられた理由と必要に基づき、「以下のごとく」定める。訴訟記録は、今後、完全に二つの文書保管室に分けられるべきである。そして、最初の文書保管室は、その中に、すべての未決のフィスカル事件、命令訴訟事件、平和侵犯事件、聖俗者のすべての、あるいは、大部分の財産、所有、権利、慣習法上の権利等の迫害・侵奪事件、第一審事件、皇帝のカンマー裁判所への仲裁判決ないし承認事件、世俗権力ないし聖界権力行使申立事件、また、コミサールの判決の執行事件、その他、アペラチオンによるのではなく、他の方法で生じた事件を含むべきである。⁽¹⁾

(1) VA 1531, §. 28 al. 30.

§. 4. もう一つの文書保管室は、その中に、すべての上訴事件、および、行為禁止処分違反事件、不服従に対する宣言事件、

強制命令事件、行為禁止事件、同様に、そのすべての執行事件のような上訴事件に関連しうる事件を含むべきである。⁽¹⁾

(1) VA 1531, §. 29 al. 31.

§. 5. 二つの文書保管室のために、二名のレーザーが任命される。両者は同じ権限にてすべての訴訟記録を所持し、合議体あるいは書記局にて訴訟記録が必要とされるときに問題が生じないように、一方は他方に対し誠実に助力し、常に一方が他方を代理すべきである。⁽¹⁾

(1) VA 1531, §. 30 al. 32.

§. 6. また、二名のレーザーは、しかるべき理由に基づく猜疑を避けるため、プロクラートル、その代理人、あるいは、訴訟記録にふさわしくない者を文書保管室に入室させず、部屋の前に立たせ、そこからその者の必要なことをレーザーに陳述させるべきである。レーザーのある者はしばしばこれに違反したが、その場合は、一グルデンの罰金に処せられる。⁽¹⁾

(1) VA 1531, §. 43 al. 46.

§. 7. さらに、当事者にとって重要な証拠書面、訴訟記録、記録簿等の書面が、当事者により裁判所に提出され、これが時として書記局において損なわれ、しかし、当事者がしばしばこれを他の場所で必要としたので、朕は、「以下のごとく」定める。このようなことがなされた当事者は、当該書面を検査し、その書面の印璽、標号、筆跡に明らかな疑義、あるいは、破損のあるときは、裁判所に対し直ちに異議を申し立てる権限を有する。ただし、カンマー裁判所長が「しかるべき」理由から、これにつきより長い「猶予」期間を認めたときはこの限りでない。ついで、当事者あるいはそのプロクラートルの申立に基づき、その原本たる書面が当事者に返還されるべきである。だが、これに関しては、レーザーの一名あるいはプロトノタールにより照合された信頼しうる写しが常に訴訟記録と書記局に保存されるべきである。⁽¹⁾

(1) RKGO 1500, XXVIII.

§8. そして、カンマー裁判所長および陪席判決人の下にその都度保管される金銭は、以後、しかるべく管理されるべきなので、朕は、「以下のごとく」定める。このような金銭のために、カンマー裁判所長および陪席判決人により、訴訟記録の記録保管室に特別な金庫の設置が命ぜられ、すでに保管され、あるいは、将来保管されるであろう金銭は、そこに収められてしかるべく管理されるべきである。その金庫の四つの鍵のうち、一つはカンマー裁判所長、一つは選帝侯の陪席判決人の最年長者、一つはクライスの陪席判決人、一つは書記局長が所持すべきである。⁽¹⁾

(1) VA 1531, §. 31, 33 al. 36.

XXXI. セクレタール、イングロシスト、コピーリストの職務について。⁽¹⁾

(1) RKGO 1521, XII.

セクレタール、イングロシスト、コピーリストは、書記局長、プロトノタール、あるいはまた、ノタールにより記録するよ
うに、さもなくば、書記局長により書記局の内外で行うように命ぜられたことを、常に、しかるべきように勤勉に記載
し、遂行し、このような命令に従い、常に、書記局長の命令に基づき書記局に在席すべき間等において熱心に職務を司るべ
きである。⁽¹⁾

(1) RKGO 1521, XII.

XXXII. 書記局下僕について。

書記局下僕は、いつも定刻に書記局が開閉され、よく「秩序が」保たれるように努めるとともに、書記局の内および前に待機し、命じられたことをその都度熱心に遂行すべきである。

XXXIII. 書記局手数料の査定について。⁽¹⁾

(1) RKG 1555, I, XL.; RKG 1521, XVI.; VA 1531, §. 47 al. 50.

§. 1. 書記局手数料の査定はつきのようにして行われるべきである。すなわち、単純な召喚については一箇所につき一グルデン、そこに禁止状が付されるときは一箇所につき二グルデン、強制状については一箇所につき二グルデン、執行状については一箇所につき三グルデン、それに召喚状が付加されるときは一箇所につき四グルデン、証人を尋問するコミシオンについては一箇所につき六グルデンが支払われるべきである。⁽¹⁾

(1) RKG 1495, §. 17, 19, 20.

§. 2. さらにまた、その他の裁判により付与されてしかるべき、さもないれば、申立と必要に基づき、裁判によらないで当事者に付与される執行状等の書面が交付されるとき、これは、相当なしかるべき方法と書記局長の裁量により査定され、これにつき当事者に過重な負担がかけられてはならない。⁽¹⁾

(1) VA 1533, §. 14.

§. 3. 訴訟で相手方に勝訴した事件において、当事者が（その者が必要としない）判決書を、カンマー裁判所の上述の書記

局を通じて多額の費用の支払いと引き換えに受け取るように強制され、また、それにつき、裁判所の出す費用伝票が押さえられ、報告と査定のために渡されない、あるいは、査定されても、当事者にしかるべき給付命令状が交付されず、これらにより、当事者が費用の査定や必要な給付命令状を待たされ、給付判決により命ぜられたことを迅速に実現しえないとの不満が、当事者からこれまでもしばしば皇帝のカンマー裁判所に対して生じていたので、朕は、「以下のごとく」定める。本案および費用に関して下された判決がともに充分に執行され、かつ、当事者に不要な費用の負担がかからないように、以後、当事者は、必要でなく要求もそのために皇帝のカンマー裁判所の書記局における迅速な処理への働きかけもしていない判決書を受け取る義務はなく、これを受け取るか否かは各当事者の自由な意思に委ねられるべきである。さらにまた、当事者は、書記局により費用あるいは給付命令の「手続を」とることを強いられず、レーザーは、義務として、裁判した事件の費用伝票を速かに交付すべきである。これに基づき査定され、給付判決により命ぜられたものと適切な費用と損害につき、当事者が給付命令状を得ることができるためである。だが、これと並んで、各事件において費やした労苦と作業を考慮された書記局が、相当な報酬を受け取るのは道理にかなっているので、費用が割り当てられる勝訴当事者は、費用（伝票）が査定のために渡され、あるいは、給付命令状が書記局から当事者に交付される前に、判決書を受け取ろうとしないすべての事件において、書記局長と上述の労苦と作業の（書記局長は、常に、労苦と作業の程度と事件と当事者の状態に従い、しかるべき方法にて行うべき）査定を調整すべきである。そして、費用が皇帝のカンマー裁判所で補償調整されたとき、両当事者は直ちにそれにつき同じように取り決めるべきである。両当事者が査定につき互いに一致しえず、当事者にその相応以上の負担がかかるときは、カンマー裁判所長および陪席判決人は、これに必要な注意をし、事件の状況に従い、いかなる者も負担につき不満を持たないように、査定を調整すべきである。⁽¹⁾

(1) VA 1531, §. 45 al. 48.; VA 1533, §. 14.

§. 4. また、書記局において、自らあるいはブロークラートルを通して判決書の作成を求めた当事者は、これまでしばしば行

われていたごとく、判決書を〔書記局に〕そのままにせず、この場合には、異議を唱えることなく受け取り、カンマー裁判所長と陪席判決人は、書記局長の申立に基づき、これを〔当事者に〕要求すべきである。⁽¹⁾

(1) RKGGO 1521, XVI.; RKGGO 1555, I, XXIV, §. 2.

XXXIV. 廷吏職について。

§. 1. 同様に、カンマー裁判所の廷吏は、勤勉に合議室の前に待機し、定刻あるいはカンマー裁判所長あるいは陪席判決人が廷吏に命じた時刻に合議室を開閉し、また、その都度廷吏に命じられたことを誠実かつ勤勉に遂行すべきである。⁽¹⁾

(1) RKGGO 1521, XVII.

§. 2. 廷吏は、報告中の合議時に、在室は当然として入退室すべきでなく、合議体に申立状等を渡すべきときは、前以て合議室〔の扉〕をノックすべきである。⁽¹⁾

(1) VM 1533, §. 23.

§. 3. さらに、廷吏は、各開廷期日に法廷に在席すべき陪席判決人のアナウンスを順序よく行い、座席が平等に扱われ、いかなる者も他の者より不利にされないため、これにつき廷吏独自の記録簿を所持すべきである。

§. 4. 廷吏は、公判廷において、プロクラートルの陳述に対して十分に注意し、プロクラートルが提出する書面を遅滞なく受け取り、これを公判廷に在廷しているレーザーに手渡し、公判廷が扉を開かれ静粛に行われるように注意すべきである。

§.1 廷吏は、直ちに、判決・決定に基づいて陳述するウムフラゲがなされる前に、常に裁判所で決定される呼び出しを定まった場所で行い、これについて報告をなすべきである。

XXXV. 送達吏の受命陪席判決人と送達長の職務について。

§.1 数年来、皇帝のカンマー裁判所の書面の送達の際に瑕疵が多く、送達吏にも勤勉でないことが見られ、そこから、当事者に少なくない不利益が生じ、ついで、送達吏も、先に制定された法に違背して、様々な方法で妨害され、欺かれ、苦しめられ、さらに、送達吏にふさわしい者が、いささかの干渉により遠ざけられ、皇帝陛下、朕、あるいは、カンマー裁判所にとってこのように役立たない他の者が許可されているとの苦情がしばしば言われているという報告を朕は受けている⁽¹⁾。

(1) RKGO 1555, I, XXVI, §. 3.; O. der reit. Boten 1539, Pr.

§.2 これに対処し、また、以後皇帝のカンマー裁判所の出す裁判所の書面がより確実に扱われ、その送達が迅速になされ、また、送達吏にしかるべく滞りなく報酬が支払われうるように、朕は、「以下のごとく」定める。送達長は、作成された書面を手元に受け取り、これにつき騎行するか騎行するであろうカンマー送達吏を派遣し、ブロックラートルに、このような書面を書記局にそのまましておくこと、あるいは、それを持ち出すことを許すべきでなく、また、長きにわたり行われてきたように、ブロックラートルの随意に、何時誰によるのであれ、法に違背して告知させるべきでない⁽¹⁾。

(1) O. der reit. Boten 1539, §. 1.; GB 27. 5. 1528; VA 1531, §. 48.

§.3 送達長は、また、等しく分配され、いかなる者も他の者より負担を負い不利になることのないように、送達吏をよき

秩序の下に置き等しく扱うべきである。送達長が送達吏を派遣するとき、送達吏に送達を命じたすべての裁判所の書面を記録簿に記載し、その同じ記録簿に送達長から裁判所の書面を受け取った送達吏に署名させ、ついで、送達吏からその帰還につき報告を受け、また、(慣行のごとく)送達吏の到着日とともにこれを記載し、上述のごとく送達吏に署名させるべきである。また、直ちに、送達吏を送達された裁判所の書面に関するしかるべき報酬を超えて所持しているものを算出して金庫に支払うように促し、これを、古くからの慣行のごとく、四季大斎日ごとに清算すると同時に送達吏に分配すべきである。⁽¹⁾

(1) RKGO 1555, I, XLVII, §. 3, 38.; O. der reit. Boten 1539, §. 2.; VA 1531, §. 48 al. 51, 49 al. 52.

§. 4. 送達長は、また、カンマー送達吏が送達長により書面を携えて派遣され、騎行を引き受けたとき、その送達吏がそこから速かに騎行し、送達長の命令に誠実かつ勤勉に従い、これまでしばしば行われたごとく、二日、四日、六日ないしそれ以上の間、密かに隠れたままでいることのないようによく注意すべきである。⁽¹⁾

(1) O. der reit. Boten 1539, §. 3.

§. 5. しかし、交付された裁判所の書面を宣誓した騎行カンマー送達吏でなく、公証人により告知させようとする当事者あるいはプロクラートルは、本法もこれを許しているごとく、信頼しうる公証人によってこれを行うことを認められるべきである。⁽¹⁾

(1) RKGO 1555, I, XXXIX, §. 1.; RKGO 1495, §. 11.; RKGO 1521, VIII, §. 1.; O. der reit. Boten 1539, §. 4.

§. 6. 送達長の不注意により、送達吏に対し調整金が金庫から断たれ、長期にわたり要求されず、このことが皇帝のカンマー送達吏にとって極端に負担となっていたので、朕の見解は、「以下のごとく」である。以後、送達長は、皇帝のカンマー送達吏を通して裁判所の書面を送達させようとしなすすべての者から、古い慣行のごとく、調整金を、すなわち、一〇

マイルにつき五バートツ、さなければ、事件の状況および各人の態度や能力の状況に応じて要求し徴収すべきである。すなわち、送達長は、事件の状況および各人の態度や能力の状況に応じて裁判所の書面の送達を委ねて許し、またついで、その調整金を丹念に記載し、そして、当事者あるいはブロックラートルが調整金として支払ったものの通知を当事者あるいはブロックラートルにより署名させ、これを金庫に蓄え、四半期ごとに清算して送達吏に分配すべきである⁽¹⁾。

(1) O. der reit. Boten 1539, §. 1 u. 5.; RKGO 1496, VIII, §. 2.; RKGO 1500, XXXI, §. 2.

§. 7. さらに、送達長は、すべての開延期日において新事項に関するウムフラーゲの順番が回ってくるまで公判廷に在廷し、裁判所の書面が提出されても、送達長が派遣した者、あるいは、送達を許した者によってそれが送達されていない状態にあるときは、送達長は、次回の期日において遅滞なくこのことを合議体に告知すべきである⁽¹⁾。

(1) RKGO 1555, III, VII.

§. 8. そこでまた、カンマー裁判所長、陪席判決人は、以後、もはや皇帝の書面を補助送達吏ないし歩行送達吏により告知することをしかるべき理由に基づいて許すべきでない。ただし、宣誓した騎行カンマー送達吏がいないときに、その送達の遅滞が許されない裁判所の書面が認められ派遣されるときはこの限りでない。この場合、送達長は、カンマー裁判所長および陪席判決人の事前の了解のもとに、その都度、補助送達吏ないし歩行送達吏に宣誓をさせ、このような書面の告知をその者に委ねる権能を有する⁽¹⁾。

(1) RKGO 1523, II, §. 1.

§. 9. また、ブロックラートルおよび当事者は、以後、補助送達吏ないし歩行送達吏に銀、銅、木からなる皇帝陛下の紋章をつけるべきでなく、補助送達吏ないし歩行送達吏も、ブロックラートル、当事者から、あるいは、自らこれを受け取り身につ

けるべきでない。しかし、補助送達吏ないし徒歩送達吏が、これに着手するか、皇帝陛下の紋章を他の者から受け取るか、本法に違背して自らこれをつけたことを信じるに足る形で示したときは、この違反者は、他の者に見せしめとなる処罰を受けるべきである。

§ 10. しかし、プロクラートルあるいは当事者が、皇帝の書面および使書の外に、あるいは、他の火急な業務において、間に合わせのため補助送達吏ないし歩行送達吏を派遣しなければならず、また派遣しようとし、その道程が一層安全であるため、送達吏に、皇帝陛下の紋章をして遣わせる権能を主張するとき、プロクラートルあるいは当事者からこの権能は奪われるべきでない。だが、プロクラートルあるいは当事者が、このような皇帝の紋章を送達長に求める程度により、送達長にも、プロクラートルおよび当事者からの各申立人に一つ「〔の紋章〕」を付与する権能を有するべきである。だが、プロクラートル、当事者、補助送達吏ないし歩行送達吏は、送達終了後、受領した紋章を遅滞なく送達長に返却し、それをさらに所持すべきでない。⁽¹⁾

(1) O. der reit. Boten 1539, §. 6.

§ 11. そして、これまで、送達吏の下で、また、送達吏とプロクラートルと当事者等との間で、その職務の遂行やその他の点で、多くの混乱、瑕疵、妨害が生じ、そこから、裁判所と当事者に生じる難儀と不利益は少なかつたので、今や、今後はこのようなことが可能な限り防止され、また、これにつき常にしかるべき注意がなされるために、皇帝のカンマー裁判所の書記局長は、送達吏と送達長を一名の受命陪席判決人の下に置くとともに、この受命陪席判決人は、送達吏同士、あるいは、送達吏と当事者等との間でしばしば生じうるこのような混乱につき裁判し、また、送達長と送達吏につき、とりわけ、その派遣、送達、報告につき本法が遵守され、今後はそれらに関する瑕疵がすべて避けられるように真面目に力を尽くして注意する権限を有する。⁽²⁾

- (1) RKGGO 1521, XVIII, §. 1, 3.
(2) RKGGO 1521, XVIII, §. 3.

XXXVI. カンマー裁判所の送達吏について、および、送達吏が
いかにして採用されるべきか。⁽¹⁾

- (1) KGO 1471, §. 8, 9.; RKGGO 1495, §. 4, 11.; RKGGO 1496, VIII, §. 1, 2.; RA 1498, §. 26.; RKGGO 1500, XXX.; RKGGO 1521, XVIII.; VA 1531, §. 48 al. 51, 52 al. 56.; Boteno 1538.; O. der reit. Boten 1539.

§. 1. カンマー裁判所の送達吏は重要であり、その報告は信頼され、それに基づき、その都度、不服従者に対する裁判所の書面は欠席手続に回されるので、朕は、「以下のごとく」定める。以後、カンマー裁判所長および陪席判決人は、その者が信頼でき、敬虔かつ誠実で、送達吏職に向いていること、特に、相当程度の読み書きができることにつき充分な情報がなければ、いかなる者も送達吏に採用し、あるいは、「皇帝の」紋章を付与すべきでない。また、採用された一名あるいは若干名の者が、その後役に立たないことが判明したとき、その者は、常にカンマー裁判所長および陪席判決人により職を解かれるべきであって、ここにおいて、それがいかにして、あるいは、誰によってなされるのであれ、いかなる愛顧、保護も顧慮されてはならない。

§. 2. そして、以後、送達吏は一二名が採用され、以下に送達吏の報酬につき規定されているごとく給与の支払いを受けるべきである。⁽¹⁾一二名を超える送達吏が必要となときは、カンマー裁判所長および陪席判決人はその都度これを採用する権限を有する。⁽²⁾

- (1) RKGGO 1555, XLVII.

(2) RKGO 1521, c.1.

XXXXVII. 送達吏職について。

§. 1. まず、朕は、皇帝のカンマー裁判所のすべての宣誓した各送達吏は騎行し、自ら賄うべきであることを定める⁽¹⁾。

(1) RKGO 1500, XXX, §. 3.

§. 2. 各送達吏はしかるべく必要に応じて読み書きができ、その者の送達を自ら明瞭に記載することに堪能であるべきである。

§. 3. そして、その都度、騎行の順番にある送達吏は、裁判所の書面につき派遣するときに、その者を捜し、あるいは、後を追う必要がないように、午前および午後⁽¹⁾に書記局の前にて待機すべきである。

(1) VA 1531, §. 51, 52 al. 55.; O. der reit. Boten 1539, §. 7.

§. 4. そして、騎行の順番のきた送達吏は、困難であろうとなかろうと、快く「送達の」旅に応じ、これを誠実に遂行すべきである⁽¹⁾。

(1) VA 1531, §. 51 al. 54.

§. 5. また、派遣の前に、騎行する送達吏に対し行程を熟知させるべきである。そして、送達長により派遣されるや、懈怠なく、その時から騎行し、それ以上別の裁判所の書面を待ち、あるいは、「送達の」旅を二日あるいは三日間手間どるべき

でない。ただし、送達吏に明白なしかるべき理由があり、受命陪席判決人により旅を遅らすことにつき許可がなされたときはこの限りでない。⁽¹⁾

(1) BotenO 1538, §. 25.

§. 6. さらに、朕は、「以下のごとく」定める。いかなる送達吏も、送達長の手から、あるいは、送達長の委託に基づき、皇帝の「カンマー裁判所の」書面を受け取り、送達長から派遣されるのでなければ、書面の送達を引き受けるべきでない。また、送達吏は、このような書面につき派遣されることを送達長の記録簿に自署すべきである。⁽¹⁾

(1) RKGO 1500, IX, §. 2.; VA 1531, §. 48 al. 51.

§. 7. 騎行を終えて帰還した送達吏は、直ちに送達長に通知してその報告をなし、この送達に記載されている送達長の記録簿に署名すべきである。⁽¹⁾

(1) VA 1531, §. 52 al. 55.

§. 8. 送達吏は、本法により金庫に収める金銭を手もとに保持せず、直ちに、送達長に清算のため委ねるべきである。そして、送達長を、言葉や行動で、その者やその者の職務に関して侮辱あるいは無視をすべきでない。⁽¹⁾

(1) VA 1533, §. 15.

§. 9. 同様に、当事者からプロクラートルに提供した金品を受領した送達吏は、遅滞なく、受領したごとくに「送達長に」委ね、あるいは、最初から金品を受け取らないでおくべきである。⁽¹⁾

(1) BotenO 1538, §. 26.

§. 10. 朕は、また〔以下のごとく〕定める。送達吏は、その者が遂行する場所にて、しかるべき充分な慎重深さをもって振る舞い、いかなる者をも言葉や行動にて苦しめ、あるいは、侮辱しないこと。そして、同じく、送達の相手方、あるいは、その者の従者により、送達吏に対し不遜な言葉で対応されたとしても、送達吏は、それに対して、慎重深く振る舞い、好意的な言葉で、送達を行う権能があることを告知すべきこと。これに従わず相応に振る舞わない送達吏はこの故に処罰されるであらう⁽¹⁾。

(1) dlo. §. 24.

§. 11. そこで、朕の厳然たる定めは〔以下のごとく〕である。送達吏は、一定のしかるべき報酬を超えて、当事者を多少とも苦しめ無理強いすべきでなく、さらに、当事者に対して自らでも考え出されうるいずれかの方法にて策略を用いず、各送達吏は、送達吏の報酬につき以下のごとく規定された報酬にて満足すべきである⁽¹⁾。

(1) RKGO 1555, I, XLVII.; RKGO 1495, §. 11.; RKGO 1496, VII, §. 1, 2.; RKGO 1500, XXI.; RKGO 1521, XVIII, §. 1.; VA 1530, §. 10.; VA 1531, §. 50 al. 53.; Boteno 1538, §. 10.; O. der reit. Boten 1539, §. 7.

§. 12. さらに、送達吏は、その送達をしかるべく勤勉に行い、すべて以下詳細に規定されるごとくに、送達するように命じられた裁判所の書面を、その相手方に、都合よくなしうるときは手渡し、あるいは、その者の日常の住居に、さまなければ、その裁判所の書面に示された場所に、あるいは、カンマー裁判所長、陪席判決人、あるいは、受命陪席判決人により決められたごとくに、誠実に告知して交付し、それにつき自ら丹念かつ明瞭な報告をし、このことを裁判所の書面の原本と正本に記載すべきである⁽¹⁾。

(1) RKGO 1521, XVIII, §. 3.; VA 1531, §. 49 al. 52.; VA 1533, §. 15.; VM 1533, §. 24.; Boteno 1538, §. 7-9.